

赤ちゃんはつらいよ。「赤ちゃん物価」上昇率は過去最高

2024年4月23日

調査部 上席主任研究員 遠藤 裕基

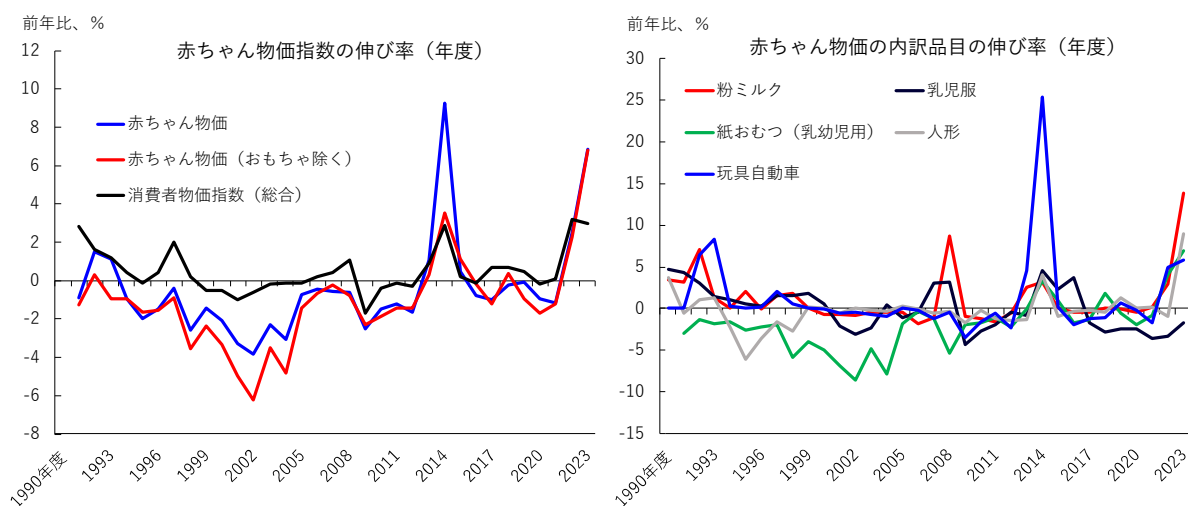
2023年度の赤ちゃん物価（おもちゃ除く）は前年比+6.8%で過去最高の伸びに

浜銀総合研究所では、総務省「消費者物価指数」から赤ちゃん関連商品（粉ミルク、乳児服、紙おむつ（乳幼児用）、人形、玩具自動車）の価格指数を抽出して統合した「赤ちゃん物価指数」を作成している。

2023年度の「赤ちゃん物価指数」は前年比+6.9%と、消費税増税などの影響¹があった2014年度以来の高い伸びとなった。また、赤ちゃんにとって特に必要な粉ミルク、乳児服、紙おむつ（乳幼児用）のみを合成した「赤ちゃん物価指数（おもちゃ除く）」は同+6.8%と、赤ちゃん物価指数の作成に必要な統計が揃う1991年度以降で、最も高い伸び率を記録した（図表1）。特に粉ミルクの伸び率（同+13.8%）の高さが際立った。

粉ミルク、乳児服、紙おむつは、価格が上がったからと言って、購入数量を減らしたり、安い製品を探したり、といった調整が難しい（紙おむつは肌に合わないとかぶれたり、粉ミルクもモ

図表1 赤ちゃん物価指数（おもちゃ除く）は1991年度以降で過去最高の伸び率



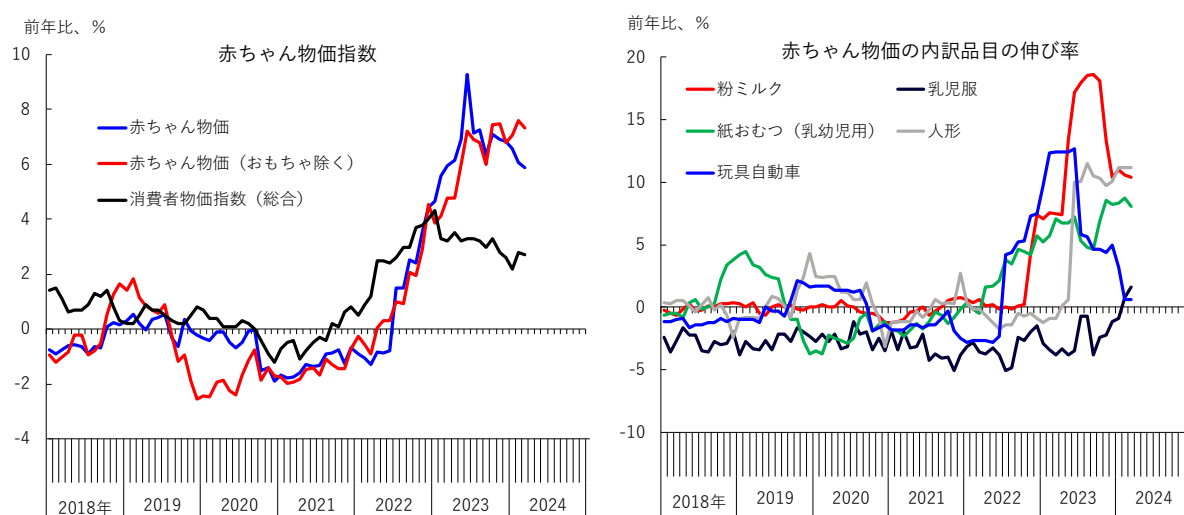
出所：総務省「消費者物価指数」より浜銀総研作成

¹ 2014年度の玩具自動車は、消費税増税に加えて、調査対象銘柄の値上げ（2014年2月）の影響で前年比+25.4%と、大幅上昇になった。

ノによっては飲んでくれなかったり、お腹を壊したりするため)。こうした商品の価格上昇で、金額が一定の児童手当は実質的に目減りしていることになる。こうした点を考慮して、育児世帯に対して、粉ミルクや紙おむつの現物支給などの政策的なサポートがあってもよいのではないだろうか。ただし、使いたいメーカーが家庭により違うことも考えられるので、例えば、一定額のクーポンを発行して、それをお店で品物と交換する（差額は自費負担）というのも一案だろう。

なお、月次でみると「赤ちゃん物価指数（おもちゃ除く）」は2024年3月に前年比+7.3%と鈍化傾向がみられず、高い伸びが続いている（図表2）。内訳をみると、粉ミルク（同+10.4%）と紙おむつ（同+8.1%）の伸び率が高止まりし、乳児服も2か月連続で前年を上回った。引き続き育児世帯の負担感は強いと考えられる。

図表2 粉ミルクと紙おむつの伸び率が高止まり



出所：総務省「消費者物価指数」より浜銀総研作成

執筆者紹介



遠藤 裕基（えんどう ゆうき）
 浜銀総合研究所 調査部 上席主任研究員
 神奈川県経済及び労働・雇用関連の調査業務を担当。

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願いいたします。